News Release

RICOH imagine. change.

2025 年 6 月 30 日

リコージャパン、Dify アカデミック版と教育支援サービスを提供開始
～ Dify メニューの拡充により、AI の市民開発を実現するサービスを強化 ～

リコージャパン株式会社（社長執行役員：笠井 徹）は、教育機関に向けた、「Dify（ディフィ）エンタープライズプラン」のアカデミック版を本日より提供開始します。また、すべての業種を対象とした「Dify 教育支援サービス」の提供も本日より開始します。

リコージャパンが独自に提供する「Dify エンタープライズプラン」のアカデミック版は、大学や高等専門学校などの教育機関にむけたライセンスです。教育機関では、セキュアな環境での AI 活用が求められますが、「Dify エンタープライズプラン」はデータセキュリティ機能やアクセス権設定ができる管理機能を備えています。お客様管理の PaaS(Platform as a Service)上で Dify を利用することで、生徒や教師の個人情報など機密性の高い情報を含む文書作成や問い合わせ対応といった、学校事務や教師の業務への生成 AI 活用を通じた業務効率化が可能です。

また、リコージャパンは、Dify をご活用いただくための環境構築、お問い合わせ対応サービスをすべての業種のお客様に向けてご提供しており、本日より、新たに Dify 利用者に向けた教育支援メニューを提供開始します。教育支援メニューは、お客様の生成 AI や Dify の習熟度に合わせて初級者・中級者向けのメニューを用意。講義形式とハンズオン実践を組み合わせ、業務効率化のためのアプリケーションや AI エージェントの開発も体験いただきます。AI の専門的な知識がない方でも安心して Dify の活用を始めることができます。自社の業種業務に合わせた生成 AI アプリケーションなどをお客様自身が作成できるよう支援し、AI の市民開発を促進します。

リコージャパン株式会社 https://jp.ricoh.com/companies/ricoh-japan

報道関係のお問い合わせ先 リコージャパン株式会社 コーポレートコミュニケーション部 広報・ブランディンググループ
E-mail：zjc_rjccd@jp.ricoh.com

お客様の問い合わせ先 仕事のAI お問合せフォーム
https://www.secure.rc-club.ricoh.co.jp/shigoto-no-ai_inq?

✓ 生成AI / Difyの習熟度に合わせ初級者・中級者向けの教育メニューをご提供いたします。

初心者向け教育	中級者向け教育
AI/Difyの基礎を知る Difyの可能性と価値を認識	**Difyの実践力を身に付ける** 実際にDifyを使いこなす
■対象ユーザー ・AI初学者、Difyをこれから使用する人 **■実施項目** 座学 ハンズオン実践	**■対象ユーザー** ・Difyを本格的に使用 ・API連携などを駆使してDifyで業務アプリを作成 **■実施項目** 座学 ハンズオン実践

初級者・中級者向けのメニュー表

リコーグループは、自らの社内業務で AI 活用を進め、ユースケースづくりに取り組んでいます。Dify をはじめとしたノーコードアプリケーションを活用することで、現場の担当者自らが AI を開発し AI の市民開発を進め、組織内の AI 活用を加速することで、経営課題の解決やイノベーションの創出を目指しています。

リコージャパンは、リコーグループの実践活動で培ったノウハウとともに、お客様に寄り添い、業種業務に合わせて利用できる「使える・使いこなせる AI」を提供し、お客様が取り組むオフィス／現場のデジタルトランスフォーメーション（DX）を支援してまいります。

【AI の市民開発と Dify について】

近年の生成 AI の普及により、幅広い業務での AI 活用による業務効率化・生産性向上が検討されています。一方で、社内に AI の開発ができる人材がいない、開発にかかる工数や費用を懸念している等、実際の AI 活用には課題が存在しています。そうした中で、技術的な知識がない人でも AI アプリケーションを簡単に作成し、広く利用できるようにする「AI の市民開発（AI の民主化）」が注目されています。

Dify は、LangGenius, Inc.が開発したオープンソースの LLM アプリ開発プラットフォームです。RAG エンジンを使用して、AI エージェントから複雑な AI ワークフローまで、LLM を活用したアプリケーションやサービスを簡単に作成・運用することができます。最大の特徴は、プログラミングの知識がなくても、ノーコードで開発できる点です。プログラムを書く必要なく、処理の機能を持つブロックをつなげていきプログラムを組み立てる直感的なインターフェースで、多様な AI アプリケーションを簡単に作成できます。技術者ではない実際の業務担当者が、自ら業務に最適な AI アプリケーションを素早く開発する AI の市民開発のために、活用が期待されているプラットフォームです。

【リコーの AI 開発について】

リコーは、1980 年代に AI 開発を始め、2015 年からは画像認識技術を活かした深層学習 AI の開発を進め、外観検査、振動モニタリングなどに適用してきました。2020 年から、自然言語処理技術を活用し、オフィス内の文書やコールセンターに届いた顧客の声（VOC）などを分析して業務効率化や顧客対応に活かす「仕事の AI」の提供を開始しました。2022 年からはいち早く、大規模言語モデル（LLM）の研究・開発に着目し、2023 年 3 月にはリコー独自の LLM を発表。その後も、700 億パラメータの大規模でありながらオンプレミスでも導入可能な LLM（日英中 3 言語に対応）を開発するなど、お客様のご要望に応じて提供可能な様々な AI の基盤開発を行っています。また、画像認識、自然言語処理に加え、音声認識 AI に関しても研究開発をすすめ、音声対話機能を持つ AI エージェントのお客様への提供も開始しています。

■関連ニュース

リコー、生成 AI アプリ開発プラットフォーム「Dify」開発元の LangGenius, Inc.と販売・構築パートナー契約を締結

https://jp.ricoh.com/release/2024/1217_1

リコー、生成 AI アプリ開発プラットフォーム「Dify」を活用した社内実践を開始し、AI の市民開発に向けた取り組みを加速

https://jp.ricoh.com/release/2024/1128_1

■関連リンク

Dify.AI.（LangGenius, Inc.）

https://dify.ai/jp

※社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

| リコーグループについて |

リコーグループは、お客様のDXを支援し、そのビジネスを成功に導くデジタルサービス、印刷および画像ソリューションなどを世界約200の国と地域で提供しています（2025年3月期グループ連結売上高2兆5,278億円）。

“はたらく”に歓びを　創業以来85年以上にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。https://jp.ricoh.com/